

アメリカの農業と工業

1 / 1

世界の姿 日本の姿 気候と暮らし アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州 **北アメリカ州** 南アメリカ州 オセアニア州

今日の問い

アメリカ合衆国は、どのようにして世界有数の農業国・工業国になったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 適地適作と企業的な農業

農業

てきちてきさく
適地適作

地域の気候や土に合った作物を育てること。

きぎょうてき のうぎょう
企業的な農業

大型機械を使い、少ない人手で広い農地を経営する農業。

こくもつ
穀物メジャー

穀物を世界中で取り引きする大企業。

アメリカ合衆国では、地域の気候や土に合った作物を育てる**適地適作**が行われている。五大湖の周辺では**酪農**、中西部では**とうもろこし**や大豆、グレートプレーンズなどでは**小麦**、南部では**綿花**がつかられ、雨の少ない西部では肉牛の**放牧**がさかんである。

大型機械を使い、少ない人手で広い農地を経営する**企業的な農業**が中心で、乾燥した地域では、くみ上げた地下水を円形にまく**センターピボット**も使われる。穀物は**穀物メジャー**とよばれる大企業によって世界中に輸出され、アメリカは「**世界の食料庫**」とよばれる。

地域	主な農業
五大湖の周辺・中西部	酪農・とうもろこし・大豆
グレートプレーンズ・南部	小麦・綿花
西部(雨が少ない)	肉牛の放牧

2 工業の発展と変化

工業

サンベルト

北緯37度より南の、温暖な地域。1970年代ごろから工業が発展した。

たこくせきぎょう
多国籍企業

世界の多くの国に拠点をもつて活動する企業。

アメリカ合衆国では、石炭や鉄鉱石を生かして**五大湖**の周辺で**鉄鋼**や**自動車**の工業が発展した。1970年代ごろからは、温暖で土地が広く、労働力も得やすい北緯37度より南の**サンベルト**で、航空宇宙や電子機器などの工業が発展した。

サンフランシスコの南の**シリコンバレー**には、**ICT産業**の企業が集まっている。世界中で活動する**多国籍企業**も多く、**大量生産・大量消費**の暮らし方は世界に広がった。カナダやメキシコとは貿易の協定(**USMCA**)を結び、結びつきが強い。



アメリカの主な工業都市

五大湖の周辺のデトロイトは自動車、ピッツバーグは鉄鋼の都市として発展した。南部のヒューストンなど、サンベルトの都市では航空宇宙産業などがさかん。

問いへの答え

アメリカ合衆国は、地域の自然に合った作物を育てる適地適作と、大型機械を使う企業的な農業で大量の穀物を生産し、「世界の食料庫」とよばれている。工業は五大湖の周辺からサンベルトへと中心を広げ、シリコンバレーのICT産業や多国籍企業が、世界の経済に大きな影響をあたえている。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

